



希望学プロジェクト特別寄稿 中村圭介教授がみた釜石の企業 第五回

95%を引き寄せたもの



東京大学社会科学研究所教授 中村圭介

Profile なかむら・けいすけ

1952年生。東京大学社会科学研究所教授。専攻は労使関係論。主な著書は『日本の職場と生産システム』『成果主義の真実』『実践！自治体の人事評価』など。

副所長(現所長)の幹男さんはこの二十数年間で会社を三回、変わった。正確に言うとう、働いている所は同じなのに会社の方が勝手に変わった。三回目の会社は同和鍛造。本社は東京大田区にある。経済産業省の「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業三〇〇社」にも選ばれた優良企業である。

鍛造

タンゾウって何のこと？「しばしも止まずに槌(つち)打つひびぎ…」でおなじみの「村の鍛冶(かじ)屋」さんのお仕事を思い浮かべてください。歌は知っているけれど、仕事は知らないって。では、日本刀を作る刀鍛冶はどうでしょう。

金属を熱し、槌やハンマーなどでたたいて伸ばし、形を整える。これが鍛造です。もっとも今では槌なんかは使っていませんけどね。

同和鍛造はこの分野ではけっこう名の知られた会社である。特にニッケル合金、チタン合金といった難しい素材の鍛造を得意とする。だから「元気なモノ作り中小企業」にも選ばれた。

大型フォークリフトのフォーク(ツメの部分)では国内シェア九五%を占めている。他にも産業機械、建

設機械の部品を製造している。取引先は三五〇社ほどあり、中にはコマツ、日立、三菱など誰でも知っている会社もある。

順調な成長

その九五%がなぜ釜石に来たのか。本社がある東京の大田区は元気な中小製造業が多数、集まっている地域として有名である。数が多いというだけではない。機械加工、熱処理などさまざまな業種の中小企業がネットワークを組んでいることでも注目されている。

同和鍛造もこの大田区で事業を営み成長をとげてきた。そのうち本社工場だけでは注文をさばききれなくなり、工場の増設、新設が必要になってきた。九〇年ころの話である。



候補地探し

だが大田区では場所に限りがあるし、さらに東京では人が集まらない。どこか適切な場所を探す必要がでてきた。

金属をたたくわけだから大きな音がでる。しかも半端な音ではない。騒音公害と騒がれないためには、近隣にあまり人が住んでいないほうがいい。しかし、他方で、働いてくれる人が集まるところでないと困る。秋田でも探した。室蘭にも行った。条件の良い案件もあったそうである。だが、最後はいつも人の面で断念せざるをえなかった。本当に人を採用できるのかという不安を拭いきれなかったというのだ。

釜石へ

釜石に来たのは偶然である。

社長の兄弟が経営していた会社がすでに釜石に進出していた。幹男さんにとっては二番目となった会社である。その工場を事情があつて、丸ごと、土地も機械設備も何もかも買い取るようになった。

九四年のことである。

当然、事業も引き継いだ。ただ、早い段階から、いずれ釜石に鍛造工場をという思いは社長にはあつた。そのためには新しい場所を探す必要がある。鍛造にふさわしい土地を

土地探し

社長は、市から紹介してもらいながら、あちこちをかなり歩いた。ポインタは値段、広さ、それにロケーションである。鍛造は前にも述べたように騒音や振動の問題がある。だから町中には建てられない。

ようやく土地が見つかり、住民説明会を開こうと準備していた矢先に、他の人にその土地が売却されてしまったこともあつた。

良い土地が見つからず、途方に暮れて新日鐵釜石製鐵所の総務部長に相談に行ったときのことである。それならば「うちの土地を」という話しになったという。こういうのを「渡りに船」というのであろうか。

九六年には新しい工場が竣工し、フォークリフトのフォーク専用工場としてスタートすることとなった。

人材

人の面での不安はどうなったのであろうか。幹男さんに語ってもらおう。

う。

「この若い人を見てみると鉄に対するアレルギーが全くないんですよ。工場では熱処理もやっているのに三交替になります。それも苦にせずにはやってくれます。彼らのお父さんやおじいさん、あるいはおじいさんが新日鐵や関連会社に勤めていた。そうすると『三交替があつて』とか『重いからつらい』とか言っても、『そんなのは当たり前だ。稼ぐというのは大変なんだ』と言われてしまふ。釜石にはそんな雰囲気がありますから。そういう面でも、うちのようなきつい仕事でも苦にしないで集まってくれます」。

そうか、九五%を引き寄せたのは新日鐵の持っていた土地と、この土地で育ち、モノ作りをまっとうな職業だと考える真面目な人々なんだ。

モノ作りに対する真面目な姿勢、それは釜石製鐵所とともに歩んだ歴史が創り上げ、世代を越えて受け継がれてきたものであろう。

これを釜石の魅力のひとつとしてあげる声を私はあちこちで聞いた。エヌエスオカムラでも、ガルバート・ジャパンでも、SMCでも、双葉精密でも聞いた。

釜石市民は自分たちの魅力に気付いているのだろうか。